

午後試験

問 1

問 1 では、ソフトウェアパッケージを利用した承認手続のシステム化について出題した。全体としての正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようである。

設問 1 の c, d では、イという誤った解答が多くみられた。使いやすい画面を作成するために、画面を構成する入力部品の特徴をよく理解しておいてもらいたい。

設問 2 の g, j, l では、それぞれエ、イ、エという誤った解答が多くみられた。ソフトウェアパッケージの承認手続管理機能の説明と設問中の図を正しく理解していれば、正解が導けるはずである。

問 2

問 2 では、りん議書の作成と NPV（正味現在価値）に基づく意思決定について出題した。全体としての正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようである。

設問 1 では、c をキ、d をイ又は力とする誤った解答が多くみられた。りん議書の作成において、投資や費用、期待効果の正確な記述は不可欠である。状況を正確に理解し、必要な値を適切に計算できるようにしてもらいたい。

設問 2 では、h の正答率が低かった。設問中に示された NPV の求め方を適用すれば、正解を導けるはずである。

問 3

問 3 では、利用者 ID とアクセス権の管理を題材として、IT 業務処理統制について出題した。全体としての正答率は低く、この分野に関する理解がまだ十分でないように思われた。

権限管理手続について問う設問 1 では、e の正答率が低かった。管理手続には、ミスや不正の予防だけではなく、ミスや不正があった場合にそれを発見する役割も期待されていることを理解しておいてもらいたい。

管理手続だけでは対応しきれないリスクについて問う設問 2 や、リスクを制御する方策について問う設問 3 も、正答率が低かった。原因の一つとして、この問における人事情報と利用者 ID との関連を正確に理解できていない受験者が多かったのではないかと思われる。

問 4

問 4 では、受託業務の実施記録を蓄えたデータベースを題材に、分析に必要なデータを得るための SQL 文の作成について出題した。全体としての正答率はやや低く、枝問ごとに正答率のばらつきが大きかった。

設問 1 の a では、ウという誤った解答が多くみられた。サービスレベルに関して設定されている条件のうち、一部の条件を見落としたことが原因と思われる。

設問 2 の d, e では、ア、イ又は力という誤った解答が多くみられた。設問 1 と同様にサービスレベルの条件の一部を見落としたことに加えて、調査日時点で未対応となっている依頼を抽出することを見落とした受験者が多かったようである。

問 5

問 5 では、縫製工場の生産管理を題材として、作業の進捗データを基にした状況把握と改善方法の策定について出題した。

表、グラフ及び決定表の読取りに手間取ったためか、全体としての正答率は低かった。表やグラフから傾向や特徴をとらえることは、日常業務でも頻繁に必要なことである。状況と照らして表やグラフを読み解く訓練を、普段から心がけてもらいたい。

設問 1 では、実績作業数を求める式に関する c, d の正答率が低かった。特に d については、オーダ番号が 99999 から 1 へと循環するということが正確に理解できていない受験者が多かったようである。

設問 4 の k では、ウという誤った解答が多くみられた。1 時間以上遅れている場合の予定と実績の関係を正しく理解していれば、正解を導けるはずである。

問 6

問 6 では、カタログギフトの注文受付管理システムを題材として、E-R 図や DFD を利用したシステム設計について出題した。全体としての正答率は平均的であった。

設問 1 では、c, d の正答率が低かった。E-R 図における関連の多重度は、データベース設計の要となる事項であり、十分に理解しておいてもらいたい。

設問 2 では、j ~ ℓ の正答率が低かった。新システムに関する記述を基に各データストアのマスタ/トランザクションの別、及び各プロセスで必要となるデータ項目を判別することができれば、正解を導けるはずである。

問 7

問 7 では、受注システムを題材にして、改善案の策定とその評価について出題した。全体としての正答率は平均的であった。

設問 1 の b では、イという誤った解答が多くみられた。機器を二重化することの意義が正しく理解できていないことが原因と思われる。

設問 2 の i と設問 3 の ℓ は、どちらも正答率が低かった。採算の評価には、人員削減の効果と改善のコストの両方を考慮しなければならないことに注意すれば、正解を導けるはずである。